

函館市長 工藤 壽樹 様

住所  
氏名(名称)  
申告者 代表者氏名  
(納税義務者) 業種名  
電話番号

新型コロナウイルス感染症等に係る中小事業者等の事業用家屋および償却資産  
に対する固定資産税および都市計画税の課税標準の特例措置に関する申告書

地方税法附則第 63 条(※)に規定する新型コロナウイルス感染症等に係る中小事業者等の家屋および償却資産に対する固定資産税および都市計画税の課税標準の特例措置について、下記のとおり申告いたします。

※令和 2 年(2020 年)12 月 31 日以前は附則第 61 条

## 記

## 1 事業収入割合について

令和 2 年 月 日から同年 月 日 ※令和 2 年 2 月から 10 月までの連続する 3 月を記載			年 月 日から 年 月 日 ※左の期間の前年同期を記載		
月期	月期	月期	月期	月期	月期
円	円	円	円	円	円
合計：円・・・①			合計：円・・・②		
事業収入割合： % ( ① / ② ) ※小数点以下切り捨て					

- 50%以下 (地方税法附則第 63 条第 1 項第 1 号に該当)  
(=事業収入が前年同期比で 50%以上減少している場合 軽減率：全額)
- 50%超 70%以下 (地方税法附則第 63 条第 1 項第 2 号に該当)  
(=事業収入が前年同期比で 30%以上 50%未満減少している場合 軽減率：1/2)

## 2 特例対象資産について

申告の有無	資産	所有者番号(例：12345678-000)	
	事業用家屋(別紙のとおり)	—	—
	償却資産	—	—

※1 申告する資産に○をつけてください。

※2 償却資産については、毎年行われる申告をもって特例対象資産一覧を提出したことになります。(この申告書のほか、令和 3 年度(2021 年度)の償却資産申告書の提出が必要です。)

### 3 誓約事項について

以下の（１）から（４）について、事実と相違ないことを誓約します。

- （１）「１事業収入割合について」に記載した事業収入割合の減少は、新型コロナウイルス感染症およびそのまん延防止のための措置の影響によるものであること。
- （２）申告者は、風俗営業等の規制および業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）第2条第5項に規定する「性風俗関連特殊営業」を営んでいないこと。
- （３）（申告者が資本もしくは出資を有する法人である場合）申告者は、資本金の額もしくは出資金の額が1億円以下であり、かつ、次に掲げる事由のいずれにも該当しないこと。
  - ① その発行済株式または出資（その有する自己の株式または出資を除く。②において同じ。）の総数または総額の2分の1以上が同一の大規模法人（※）の所有に属している法人。
  - ② その発行済株式または出資の総数または総額の3分の2以上が大規模法人の所有に属している法人。※「大規模法人」とは租税特別措置法施行令第27条の4第12項に規定する大規模法人のことをいう。
- （４）（申告者が資本もしくは出資を有しない法人または租税特別措置法第10条第7項第6号に規定する中小事業者である場合）申告者は、常時使用する従業員の数が1,000人以下であること。

#### 【認定経営革新等支援機関等確認欄】

上記1～3の申告内容について、記載どおりである旨確認しました。

住 所
名 称
代表者役職
代表者氏名 <span style="float: right;">⑩</span>

（ 認定経営革新等支援機関等担当者名  
認定経営革新等支援機関等電話番号  
認定経営革新等支援機関等担当者メールアドレス ）

#### （備考）

1. 本申告において、申告すべき事項について虚偽の申告をした者は、地方税法附則第63条第4項または第5項の規定に基づき1年以下の懲役または50万円以下の罰金に処される場合があることに留意すること。
2. 「電話番号」については、日中連絡がとれる電話番号等を記載すること。
3. 「氏名（名称）」については、個人事業主にあつてはその氏名を、法人にあつてはその名称を記載すること。
4. 「業種名」については、日本標準産業分類における中分類で記載すること。
5. 本特例の申告にあつては、事前に認定経営革新等支援機関等の確認を受けること。
6. 本特例の申告は令和3年（2021年）2月1日までに函館市財務部税務室に対して行うこと。

(別紙) 特例対象資産一覧

所有者番号	—
-------	---

家屋の所在		床面積	
所在	○町×丁目△番地□	134.60 m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号	△番□		67.3 m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>
所在		m <sup>2</sup>	うち事業用
家屋番号			m <sup>2</sup>

〈注意事項〉

- 1 前年度における課税明細書に記載の物件単位で記入すること。(前年度における課税明細書に記載のない家屋については、家屋番号の物件単位で記入すること。)
- 2 事業専用割合が分かる資料(青色申告決算書等)を添付すること。
- 3 認定経営革新等支援機関等の確認を受けた後、資産の異動・取得等があった場合には再度提出のうえ、確認を受けること。
- 4 償却資産については、毎年行われる申告をもって特例対象資産一覧を提出したことになること。
- 5 申告する対象資産の納税通知書が複数ある場合は、納税通知書(所有者番号)ごとに特例対象資産一覧を作成すること。